



TITLE:

英國ノ戦費ト經濟

AUTHOR(S):

河田, 嗣郎

CITATION:

河田, 嗣郎. 英國ノ戦費ト經濟. 經濟論叢 1915, 1(4): 613-616

ISSUE DATE:

1915

URL:

<https://doi.org/10.14989/126906>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號四第

卷一第

論說

●收益ト生産費トノ關係

●專賣ト戰後財政

●經濟學認識論ノ若干問題(二完)

雜錄

●危險分散主義ノ原則

●經濟主義ニ就テ

●英吉利ノ農政問題(二完)

●享保年間ノ米價調節(二完)

雜報

●經濟的進化ト人口法則(二)

●戰爭利得稅新案

●獨逸帝國全體ニ亘ル半官企業組織新說

●英國ノ戰費ト經濟

●獨逸ノ植民の運動ノ回想

●相續稅ト家族制度

●本多利明ノ著書ニ就テ

●こんらゝど教授逝ク

法學博士 河上 肇

法學博士 小川郷太郎

法學博士 左右田喜一郎

法學博士 神戸 正雄

法學博士 戸田 海市

助教授 河田 嗣郎

法學士 本庄榮治郎

講 師 米田庄太郎

法學博士 小川郷太郎

法學博士 神戸 正雄

助教授 河田 嗣郎

助教授 山本美越乃

法學博士 神戸 正雄

法學士 本庄榮治郎

助教授 河田 嗣郎

英國ノ戰費ト經濟

助教授 河田 嗣 郎

六月二十九日倫敦 (Cairdham) ニ開カレタル市民大會ノ席上
及ビ七月二十日ノ下院ニ於テ、英國首相オズボーン氏ハ、新ニ募集
サル可キ軍事公債ノ條件其他ヲ發表スルト同時ニ、開戦以來ノ
戦費ヲ公ニシ、又此際英國國民タルモノハ好ク國家危急存亡ノ秋
タルヲ知ツテ、大ニ節儉力行シテ悉公ノ至誠ヲ披カムコトヲ切
望スル旨ヲ聲明シタ。今其ノ演説ノ要旨及ビ他ノ二三材料カラ
シテ、英國ノ戦費ト戦時經濟ノ一端ヲ示シテ見ヤト思フ。

今回募集サルル公債ハ本年度ニ至リテ以後第
三回目デアツテ其額拾五億萬圓、即チ之デ本年
度合計六拾五億萬圓トナリ、開戦以來ノ總計ハ
實ニ百壹億貳千萬圓トナルノデアル。詳カニ開
戦以來ノ募債實數ヲ上グレバ、第一回ハ昨年八
月六日ノ拾億圓、第二回ハ十一月一日ノ貳拾貳
億五千萬圓、第三回ハ本年三月一日ノ參億七千
萬圓、(即チ前年度合計參拾六億貳千萬圓)第四
回目ハ同ク三月一日通過ノ貳拾五億圓、第五回
ハ六月六日ノ貳拾五億圓、ソレニ今回ノ第六回

目ヲ加ヘテ今日迄ニ於テ本年度合計六十五億圓トナルヲケデアル。

現下日々ニ費シツツアル戰費ハ一日平均參千萬圓デアルガ、此ノ計算ヨリスレバ本年度第二回目ノ公債ハ九月二十一日迄ハ能ク戰費ヲ支ヘ得ル筈デアル。然シ色々豫想外ノ費用モ之ヲ見積ラナクテハナラズ、然カスルニ於テハ之ハ漸ク八月末日迄ヲ支ヘ得ルモノト見ルノ外ナク、從テ九月末日迄ノ爲メニハ更ニ拾億圓ヲ要スルコトトナル。之ニ又臨時ノ費用ヲ見積リテ萬々ノ安全ヲ計ルガ爲メニハ此際拾五億圓ヲ募集スルヲ以テ策ノ得タルモノトスルノデアルカラ、ドウカ、議會モ國民モ之ヲ承諾シテ吳レヨト云フノガ首相ノ説明デアツタ。

而シテ新公債ノ利率其他ノ條件ハ、當時既ニ我國ノ新聞紙上ニモ報道サレタガ如ク、從來ニ例ノ無イ寛大ナモノデアリ、利率ハ四分五厘ト云フコトニナツテ居ル。又今回ハ廣ク之ヲ天下ニ募リ、零碎ノ資金モナル可ク之ヲ吸收シ、國民ノ各階級ヲシテ能ク之ニ應ズルヲ得セシメンガ

爲メニ、郵便局ヲシテ之ヲ賣出サシムルノ便法ヲモ設ケ、郵便局デハ五磅及ビ其ノ倍數ノ應募ハ總テ之ヲ引受クルコトトシ、又一枚五志ヅツ及ビ以上ノ證券ヲ發行シ、薄資ノ應募者ハ金アル毎ニ漸次此ノ證券ヲ買貯メテ置キ、十二月一日ヲ以テ之ヲ公債證書ト取替ヘテ貰フヲ得ルコトトセラレタ。

斯カル方法ノ設ケラルルニ迄至ツタコトハ、一方ニ於テハ戰費ノ彌ガ上ニモ嵩ミ來リ、流石富裕ノ英國モ、曾テ開戰當初ニ於テろいど、じょうじ氏ガ英國ハ其ノ海外ニ投下シテ居ル資本ノ利子ダケデ優ニ此ノ戰爭ヲ賄ヒ得ルト傲語シタ様ナワケニモ行カナクナツタヲ示スト同時ニ、他方ニ於テハ又戰費ヲ國民一般ヨリ募リ一面大ニ節儉ノ必要ヲ説テ國民ヲシテ事務局ノ緊急ナルヲ知ラシメ十分覺悟スル所アラシメンガ爲メデモアルノデアル。

Guidhallニ於ケル演説デハあすきす氏ハ頗ル戰費ノ莫大ニシテ國力ノ負擔ノ輕カラザルヲ力説シ、國民一般ガ能ク此ノ事ヲ解得シテ大ニ勤

儉ノ實ヲ上ゲムコトヲ勸説シタノデアツテ、其ノ演説ノ調子ハ曩ニ開戦勿々同氏ガ同所ニ之ヲ試ミタ折トハ大分變ツテ來タノデアアル。

洵ニ今回ノ戦争ホド金ノ掛ル戦ハ未ダ曾テ之ヲ見ザル所デアアル。あすきす氏ノ説ニ依ルト、百年前ノ奈翁戦争ノ時ニモ英國ハ今回ト同ジク歐洲ノ自由ノ爲メニ戦ツタノデアアルガ、其際ハ二十年前ノ久シキニ涉レルニ拘ラズ戦費ハ八拾億圓ヲ費シタニ過ギズ、一週間ノ平均ニ於テ千萬圓ヨリ少カツタノデアアル。然ルニ今回ハ一日ノ平均ニ於テ已ニ參千萬圓ヲ要スルノデアアル。ソコダあすきす氏ハ英國ガ能ク此ノ莫大ノ戦費ヲ支辨シ得テ最後ノ勝利ヲ占ムルヲ得ンガ爲メニハ國民ノ大覺悟ヲ要シ、十分ナル儉約ヲ絶對ノ條件トスル旨ヲ説テ大ニ國民ニ訴ヘント企テ、此際個人及ビ階級ガ濫費ヲ謹マザルニ於テハ、ソハ即チ自ラ好ムデ國家ノ危急ヲ招致スルモノデアルト絶叫シタ。

統計家ノ示ス所ニ據ルト英國國民ノ年々ノ收入ハ貳百貳拾五億六千萬圓乃至貳百四拾億圓トセ

雜報

クレ、國民ノ支出ハ貳百億圓トセラレテアル。從テ差引參拾億乃至四拾億圓ノ金ハ内外ニ資本トシテ蓄積セラルル譯デアアルガ、今戦争ハ年額壹百億圓ヲ要求スルデハナイカ。之ニ應ズルノ道ハ(一)内外ニ投下サレタル資本ヲ賣却スル事デアリ、其額ハ外國投資四百億圓ト算セラレテアル。然シ之ハ賣ラントシテモ之ヲ買フ外國ガナケレバ仕方ガナイノデアツテ然モ其力ガ現下頗ル限局サレテ居ルコトハ云フ迄モナイ。又投資ヲ賣レバ國家ノ貧弱ヲ來スハ勿論デアリ貧弱ヲ以テ買ヒ得タル勝利ハ實ノ勝利デハナイ。然ラバ(二)ノ法ハ外國市場ヨリ借金スルコトデアアルガ、其ノ行ハル可キ範圍ト額ノ些少ニシテ到底戦費ヲ償フニ足ラザルハ明デアアル。(三)ニハ又英國ノ金準備ヲ賣ル事モ考ヘラレヌデハナイガ、之レ即チ英國ノ經濟ノ基礎ヲ危クシ倫敦ノ世界中心市場タル地位ヲ亡ボスモノタルニ外ナラス。然ラバ即チ殘ル(四)ノ方法トシテハ國民ノ覺悟ニヨリ大ニ失費ヲ謹ミ節儉ヲ爲スト云フコト以外他ニ求ム可キ方法ハナイノデアアル。

以上ハあすきす氏ノ演説ノ主旨デアツテ氏ハ大ニ國民的節儉ノ Propaganda ヲ爲サンガタメニ、ばなし、ろー氏ト共ニ自ラ其任ニ當ツタノデアル。尙ホ氏ハ開戦以後ニ於ケル英國貿易ノ逆調ヲ述ベ本年五月迄ノ輸出入ノ結果ヲ示シテ國民ニ警告ヲ試ミタノデアルガ、吾人ハ今他ノ材料ニ依リ本年上半年ト前年同期トノ比較表ヲ示シテ氏ノ演説ヲ補ツテ置ク。

實 額	前年比較	比較割合
輸 入... £1,101,000,000	(+)	12.1%
輸 出... £1,000,000,000	(+)	13.1%
再輸出... £1,000,000,000	(+)	13.1%

即チ輸出入合計ニ於テ本年上半年間ニ英國ガ他國ニ負フ所ハ約拾參億參千五百萬圓ヲ増シタノデアツテ、あすきす氏ハ年末迄ニハ恐ラク貳拾六億ニ上ボルデアラウト云ツテ居ル。之レ近者紐育爲替相場ノ漸次下落シツアルノト併セ致フ可キ所デアル。開戦當初ハ一時正貨需要ノ關係上電信六弗ト云フ未曾有ノ相場ヲ示シタ爲替ガ其後ハ漸次下落シテ、現下(九月二日)ハ電信四弗五十六仙、普通四弗五十六仙ト云フ異常

ノ安値ヲ示シテ居ル有様デアル。

要スルニ英國ガ費シツアル戰費ハ他國特ニ獨逸ノソレニ比シ割合ニ多額デアルコトハ爭ハレヌ事實デアリ、今後ハ恐ラク一日三千五百萬圓ヲ要スルデアラウト打算セラレテアル。仍テ今或人々ノ戰後ニ於ケル之ガ財政負擔ニ對スル豫想ナルモノヲ見ルニ Times 紙ノ載スル所ニ依レバ Harold Cox 氏ハ戰後歲計拾參億圓ノ戰費負擔ヲ生ジ來ル可シト云ヒ、タイムズ記者ハ Limits of Economic Endurance ノ題下ニ之ヲ論ジテ負擔増加貳拾億圓ヲ下ラザル可ク經費總額四拾億圓ノ歲計ハ免レ難カル可シト主張シ、之ヲ十年前ノ經費總額拾貳億四千萬圓ト比較シ見ヨト指摘シテ居ル。(九月三日稿)